

小中一貫教育だより

加東市教育委員会 小中一貫教育推進室
E-mail shochu-ikkan@city.kato.lg.jp
令和4年9月1日発行

小中交流紹介～児童会・生徒会交流「KATOプロジェクト いじめ防止フォーラム」～

今回は、小中一貫教育の取組の一つとして、小中交流を紹介しました。今回は、社、滝野、東条の3地域合同の小中交流を紹介します。

8月1日（月）、加東市役所で、一人一人を大切にする学校・学級づくりを目指した「KATOプロジェクトいじめ防止フォーラム」が開催されました。いじめ防止フォーラムには、市内の小学校児童会、中学校生徒会、学園会の代表が参加しました。

本市では、令和2年度から、市内の小中学校で、児童会や生徒会が中心となって、いじめを未然に防ぎ、解決する力をつけるために、人権を大切にした取組を行ってきました。今回の「いじめ防止フォーラム」には、各校の取組を紹介したり、いじめ問題の解決に向けて話し合ったりすることで、今後の自分自身の行動や自校の取組に活かしていくというねらいがありました。



いじめを防ぐ各校の取組を紹介します

フォーラムでは、まず、各校から友達とのつながりや人権を大切にした取組について発表がありました。いじめを防ぐ各校の取組を下記に紹介します。

- ・下級生が憧れる存在となるべく、児童会で「社レンジャー」を結成した。1年生を迎える会やブロック別集会などで、時間を守ること、明るいあいさつ、トイレのスリッパを揃えること、言葉遣い、仲間外しなど、自分たちが全校生に伝えるべきだと思ったテーマを取り上げ、社レンジャーが登場する寸劇で下級生に発信している。下級生からは、わかりやすいと好評で、ルールを守り、友達を大切にする心が育ってきている。**（社小学校）**
- ・スマイルチャレンジプロジェクトとして、出会った人に気持ちが伝わるあいさつ運動を実施している。地域からは、「子どものあいさつから元気をもらっている」という声が学校に届けられた。あいさつは、大切なコミュニケーションであることが全校生に伝わっている。あいさつをはじめ、言葉を大切にしようとする子どもが増えることで、いじめ防止につながっている。**（福田小学校）**
- ・今年度の児童会スローガン「一所懸命 輝くえがお 米田っ子」を全校話し合い集会で決めた。生活班活動（異学年で構成した縦割り班）で実施するスポーツ集会、高学年が低学年に読み聞かせをするなかよし読書、全校キャンプなど、学校全体でつながりを大切にした活動を行っている。あいさつ運動では、互いに友達の名前を呼んであいさつをする習慣がついてきている。**（米田小学校）**
- ・仲間づくりやかかわり合いを大切にした取組を行っている。全校生縦割り班遠足を6年生が中心になって計画し実施した。遠足では、1年生歓迎集会を行い、1年生との心の距離を縮めた。他にも七夕集会、全校生遊び、縦割り班掃除など、たくさんの友達とのかかわり合いやつながる機会を増やすことでいじめの早期発見につなげようと取り組んでいる。**（三草小学校）**
- ・全校生が幸せになるように、ハッピープロジェクトを実施している。友達から優しくしてもらったことへの感謝のメッセージを入れる「幸せのツボ」をつくったり、友達から言ってもらったうれしい言葉を階段のステップ部分に貼る「幸せの階段」をつくったりしている。いい言葉を集めて掲示することで、いじめのない幸せな学校にしたいと取り組んでいる。**（鴨川小学校）**

- ・友達を大切にしてみんなの仲を深める「友達プロジェクト」の一環として、「ふれあい班VS委員会 スタンプラリー」を実施した。異学年で構成した縦割り班の「ふれあい班」で、委員会ごとに考えた楽しいゲームやクイズのブースを回り、異学年同士が仲良くふれあえる時間を作った。今後も全校生が仲良くなる取組を企画することで、仲間意識を高めていきたい。

(滝野東小学校)

- ・みんなのを知ることがいじめ防止につながるという思いから、縦割り班遊び、1年生歓迎集会、全校集会などのつながりを大切にしたい取組を行っている。あいさつの合言葉「自元明」「自分から」「元気に」「明るく」を意識してあいさつができる人が増えてきた。友達の良いところを見つけて葉っぱや花の形をしたカードに書いて貼る「ふわふわの木」では、クラス全員の良いところを見つけたスペシャリストが誕生している。

(滝野南小学校)

- ・今年度の生徒会目標を「やさい〜まく 育つ 実る みんなで彩る社中〜」というスローガンにした。「まく」は、中学生活が始まった1年生へのメッセージ、「育つ」は、成長著しい2年生へのメッセージ、「実る」は進路を切り拓く3年生へのメッセージである。野菜一つ一つの色や形に違いがあるように、一人一人の個性が輝く学校にしたいという願いをスローガンに込めた。また、いじめ調査アンケートを実施し、いじめへの意識や悩みなどを把握した。今後、アンケート結果をもとにいじめを防ぐ取組を進めていきたい。

(杜中学校)

- ・いじめについて全校生で考える1週間「滝中いじめ・人権について考えるWeek」を実施した。朝の読書の時間に、全国の中学生在が書きたいじめや人権に関する3つの作文を読み、感想を書く取組を続けた。感想は、生徒会新聞で全校生に発信した。取組前と取組後のアンケート結果を比較すると、いじめへの関心が高まっていた。この1週間の取組は、いじめ問題について多面的に考えるよい機会となった。

(滝野中学校)

- ・学園生が互いの良さを認め合い、学校生活が楽しく送れるような取組を行っている。「Thanks Letter Day」では、日ごろの友達への感謝の思いを付箋に書いて掲示している。「良いこと発見情報板」では、友達の良いところを情報掲示板に書き込むことで、友達の良さを共有し、自分の生活に生かせるようにしている。「意見箱」では、学校生活における意見や提案を聞き、そのひとつひとつについて学園会中央役員が丁寧に回答している。

(東条学園小中学校)

グループ交流の様子を紹介します

各校の取組の発表後、小中学校を合わせた3つのグループに分かれて意見交流が行われました。グループ討議では、他校の取組の良さを相手校に直接伝える場面や、これからの自分の生活に生かしたいことや自分の学校で生かしたいことを伝え合う場面がありました。

自分の生活に生かしたいことでは、「誰に対しても平等に接したい」「人をお願いするときは命令口調ではなく、相手の気持ちを考えた言葉で伝えたい」などの意見が出ました。自分の学校で生かしたい

ことでは、「アンケート調査をして、いじめに関するみんなの意識を調べてみたい」「幸せの言葉みつけの取組を見習い、自分の学校でもいい言葉集めをしてみたい」などの意見が出ました。

最後に、フォーラムのアドバイザーとして参加していただいた兵庫教育大学大学院 秋光恵子教授からは、「私たちは、同じもの、同じ人を見ている、みんなが同じように見ているとは限りません。だからこそ、自分のことを相手に丁寧に伝えることや相手を丁寧にみるのが大切です。これからは、相手も自分も大切にしながら、誰もが笑顔で過ごせる素敵な学校をつくっていきましょう。」という助言をいただきました。今回、参加した子どもたちの学びが各校へと広がり、いじめを防ぐ取組がさらに充実することを期待します。

今後も、本市では、このような小中交流を通して、子ども同士のつながりの中で生まれる学びを大切にしていきたいです。

